

ミュージアムパーク茨城県自然博物館
平成26年度 第2回 博物館協議会の開催結果概要

1 博物館協議会の概要

当館の博物館協議会は、博物館法第20条の規程に基づく法定組織であり、茨城県博物館協議会条例により設置されております。

委員は13名で、任期は2年となっております。うち1名は一般公募により選出されています。

会議は、委員長によって招集され、通常年2回開催されています。

博物館法

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

2 日時

平成27年3月19日（木） 13時30分～15時00分

3 場所

ミュージアムパーク茨城県自然博物館 講座室

4 出席者

安藤正光委員，加茂明委員，椎名操委員，染川香澄委員，田切美智雄委員，
中川輝夫委員，筈谷美佐委員，水嶋英治委員，安節子委員，山口武平委員

※ 事務局出席者

菅谷博館長，坂巻喜好副館長，関勤管理課長，小幡和男副参事兼企画課長，服部仁一教育課長，滝本秀夫資料課長，山崎晃司首席学芸員，池澤広美首席学芸員，国府田良樹首席学芸員，武田順主査，荒井寿紀係長，沼尻耕一郎係長，内方陽子主任，鈴木肇主事

5 議事概要

(1) 議案説明 (事務局)

議題

- (1) 平成26年度後期事業の報告について
- (2) 開館20周年記念事業の報告について
- (3) 平成27年度事業計画について
- (4) 予算・決算などについて

(2) 質疑・意見交換

○ 議題(1)～(4)について

A 委員：

中1フリーパスについて、4月の贈呈式は本校の水戸市立双葉台中学校で行われ、新聞でも報道された。2月末に本校1年生の保護者会があったときに、本校の生徒がどのくらい中1フリーパスで博物館に行ったか聞いたところ、0名だった。その理由について、理科担当教員等に確認したところ、子どもたちが部活で忙しいこと、保護者と時間が合わないこと、一緒に行く機会がないことなどがあげられた。提案だが、子どもたち自身で博物館に行けるように、例えば夏休みだけでも博物館行きのバスを出すなどしたらよいのではないだろうか。

事務局：

こちらで調べたところ、双葉台中学校の生徒がおそらく2名ほど来てくれている。交通手段だが、守谷駅まで来てもらえると、土日だと10時台に博物館に着き、博物館から2時半くらいに出るバスがあるので、それだと5時くらいには水戸に帰ることができる。そちらを利用してもらいたい。県予算も厳しいので、チャーターバスを出すのは難しい状況。できるだけ一般交通機関を利用していただきたいと考えている。

B 委員：

水戸放送局は設立から75年になる。県域放送ができてからは10年である。唯一民間放送局がない県として、皆様に御利用されてきた。特に、昨年4月に10周年を記念してできた、4市町村を紹介していく番組「みんなで！いばらナイト」は、夕方6時半頃という、皆様が忙しいはずの時間なのに、大変好評である。この番組は、300人の人が来れば全員映すという、手間も人出もかかるものだったが、市町村に実施したアンケートで、

辞めないでほしいという声が多く、毎週の放送から月1回の放送回数へ落とすが、継続することとした。この番組の人気をみても思ったが、茨城の方はシャイだけれど、実はふるさとを自慢したいという思いも持っている。水戸とつくばは離れて遠いけれど、お互い知りたい、そしてお互い負けたくないという思いがある。自然博物館もぜひ、水戸放送局を利用して、PRしてほしいと思う。

議長：

全員映すのですね。でしたら是非ゴールデンウィーク前に博物館の職員を全員映してPRしてほしい。

事務局：

ここ博物館は県域放送が映らなかったので、3月17日にアンテナを向ける工事にきてもらった。ブースターを直せばまもなく映る予定である。

B委員：

ぜひ自然博物館の特集を組みたい。

C委員：

入館者、予算等も順調でよい。私はTXの者だが、引き続き広報に協力する。私も県域放送を見ているが、NHKで取り上げてもらうと効果が大きい。NHKに取り上げてもらった日は、電話での問い合わせやホームページのアクセス数が一気に上がる。TXで成人式のイベントを行ったとき、私の姿をみてすぐに連絡をくれた友人もいたほど。自然博物館も、ぜひNHKに取り上げてもらうよう頑張してほしい。

D委員：

入館者増おめでとうございます。提案が2つある。1つは、企画展の会期が延び、内容は担当者の様子が見えるすばらしいものとなっているが、来た人がそこで何を学び、何を感じ、どう捉えたか、などがわかるアンケートや調査を行い、学会などで発表してはどうか。2つ目は広報についてだが、もっと車で来る人に対するアピールをしてはどうか。企画展のチケットを、千葉の知人にあげたところ、こんないい博物館が近くにあることを知らなかったと言われた。車で来る人をターゲットにもっと広報活動を行ったらよいと思う。

事務局：

確かに企画展をやりっぱなしという面はぬぐいきれない。企画展のアンケートをしたり、その結果を研究報告にのせたり、またモニターからの意見分析などを行ったりはしている。今回の企画展で、新たな取り組みとして、企画展に関するツイッター投稿を募集し、展示

室で掲示している。1月にはほとんどなかったが、2月後半より増加し、掲示しきれないほどである。Webによる効果は大きいと感じる。Webを使った広報をさらに推進したい。また、千葉、埼玉方面への広報だが、引き続き行っていく。圏央道が埼玉から古河の境インターまで開通し、来年度は坂東市に、やがて成田へとつながるので、重点事業として沿線へも積極的に広報していきたい。

E 委員：

7～8月にかけて行われた、私の所属する日立市郷土博物館で行われた移動博物館では、5,500人という、館で最大の入館者数となった。御礼を申し上げる。

私の博物館でも、中学生にどうやって利用してもらうか課題である。待っているより、こちらから直接出かけて呼び込むしかないと思う。その点で、先ほど報告にあった境町立長田小学校での博物館を利用した授業の実施例について、大変期待を持っている。

事務局：

中学生の利用が少ない点について、茨城は部活動が盛んである。部活動には全員参加の学校が多い。理科が好きな子も多いはずだが、時間がない、足がない。一方ジュニア学芸員になるような、特に理科が好き子は、やってくる。中学生に対し、理科の先生の意見も聞きながら、上手にPRしていきたいと思う。先ほど長田小学校の例をあげたが、下妻市立千代川中学校でも、博物館を利用した授業の実施例がある。このように中学校とも連携していきたいと考えている。

F 委員：

博物館をもっと利用してもらうことについて、博物館での体験を発表会で発表する、というのはどうか。例えば夏休みに発表会をすれば、親子連れで博物館に来てもらえるのではないか。それをNHKで放送してもらってはどうか。私の子ども会でも協力したいと思う。

また、リピーターが多いということに感心する。家族で楽しめる施設ということで、もっと家族にPRをしたらよい。

議長：

発表会はよいアイデア。NHKでも協力してもらいたい。ある大学で、学生確保のために英語のスピーチコンクールを開催し、優勝者は無料で大学に入学できるというものがあった。大変面白い企画と感じた。ぜひ5月5日に発表会をやっていただきたい。

事務局：

県の義務教育課と博物館が連携して、博物館を会場として、理科の自由研究の県展を行っている。当館では、7月にその助けになるよう「理科自由研究のヒントを見つけよう」

というイベントを実施している。また、当館で県展の表彰を行うときに、優秀な中学生の自由研究には、中学生によるミニ学会という発表会を設け、中学生に発表してもらおうというイベントを行った。これをNHKに放送していただけると大変よいと思う。

F 委員：

学会では専門的すぎるので、どんなことを博物館で感じたかなど、どんな子どもも参加できる発表会があってもよい。

G 委員：

中1の男子を持つ親の立場です。確かに、中学1年生は忙しいが、科学部に働きかけてはどうか。各市町村では、科学フェスティバルというのを行っており、科学部はそこで展示したりするので、博物館も一緒に企画や協力を行って、同時に展示もして、広報活動も行ってしまおうというのもよいのではないか。

また、中学生だけでなく、もう少し小さなお子様のいる家庭に対し、“木育”を推進してはどうか。木育は最近全国で広まってきている。自然博物館が、赤ちゃんが最初に木や森に触れる場として、とてもよいと思う。

事務局：

形として“木育”専門にはやっていないが、ファミリープログラムの中で、自然に触れる活動の一部としてやっている。また、研究発表の手助けとしては、“青少年のための科学の祭典”に移動博物館として毎年出展し協力している。

H 委員：

中学生たちが今夢中でやっているのは“郷土検定”である。博物館関連の問題を出してもらおうよう、先生たちをお願いしてはどうか。

議事にあった、林政課と連携して森林教育をすることはとてもいいこと。私も林政課とは長年関わりがある。特に県南・県西の森林の荒廃は著しく、どう守っていくかが課題。子どもたちに、木材の年輪の数え方などを教えることもいいことではないか。博物館新キヤッチコピーの“小さな好きから・・・”にも合致する。

新潟県の胎内天文台では、星座の観察にスマートフォンのアプリを使っている。壁に星座を映して、実際の空と対比させて学習する。このようなメディアアプリを使用しての学習も効果的と感じた。

事務局：

林政課と連携した森林学習で、木の種類や気候などの影響も受ける年輪の数え方を教えることはとてもよいアイデア。ぜひ取り入れたい。

I 委員：

境町立長田小学校が博物館を利用して授業した例が出たが、ここはとても勉強熱心な学校と思う。来年度も実施するというので、博物館での授業がとてもよかったということだろう。他の遠くの学校も博物館へは来ていると思うが、なぜ長田小なのか、理由はあるか。

事務局：

多くの学校は、博物館へ遠足へ来て、帰ってしまうのが普通。長田小学校からは、理科の授業で博物館を利用したいと申し出があった。博物館での授業は、長田小学校の先生が主体となって授業を行い、館職員はゲストティーチャーとして授業のお手伝いをするという形。これがとてもよかったということで、長田小学校では、県に、博物館と直接連携する理科の教員を配置したいということで申し出たところ、来年度から、専門の教員の配置が決まったところである。長田小学校では、博物館を理科の授業で使用するカリキュラムをつくっていくことになっている。

議長：

これまでの御意見をみていくと、“メディア”“ツイッター”“スマホ”などがキーワードとしてあがっている。若い人たちは今はPCよりスマホを使う。館も積極的につぶやいてほしい。また、中学生の利用が少ないということも課題としてあがった。検討チームをつくるなどして、中学生をターゲットに取り組んで欲しい。NHKの支援が効果的という声もあがった。発表会を企画するなどして、ぜひNHKに協力をあおいでほしい。

事務局：

本日は様々な貴重な御意見をいただいた。中学生が少ないという課題について、昨年度から実施した中1フリーパスは、最初の年だったのでまだまだ数は少ないと思う。当初、20周年の記念事業として1年で終わりにしようかと考えていたが、地道な積み重ねが重要と考え、来年度も継続することに決定した。博物館に中学生が自分たちで来る手段がないという御意見もあるが、川崎の事件があったが、子どもたちだけで行かせることに親が不安を感じることもある。また、親と来たくない時期であることもある。また館としては、親と一緒にしか来られない、というのも大変よい環境であるとも感じている。こういったことは社会的な影響もあるので、委員の皆様の御意見も取り入れながら、課題解決に向け検討していきたい。また、NHKの放送など、効果的な広報を考えていきたい。各種課題についても、具体的に詰めて取り組んでいきたい。圏央道の開通に伴い、青梅市など、意外と博物館に近い地域などが分析できつつあるので、そちらについても効果的に広報できるよう検討していく。